

「十二生肖」として知られる中国の十二支は、各年がそれぞれ異なる動物の象徴に関連付けられ、12 年で一巡する周期に基づいています。2017 年の中国の新年は1月 28 日からで、それはおんどりの年(酉年)の始まりを表します。

おんどりは自信と聡明さを象徴します。おんどりを体現する者は、責任感にあふれ、規律正しく、そして賢いと言われています。彼らは偽りと幻影を見破るのが得意なのです。

おんどりとキツネ

『パンチャタントラ』からの寓話(ぐうわ)

インドの青々と生い茂っているサランダの森の中、木のこずえ高くで見事なおんどりが歓喜して鳴き始めました。黄金の太陽の最初の光線は丘を照らし、おんどの虹色に輝く羽をきらめかせました。彼は壮大な光景を眺めて胸を張り、「何という栄光にあふれた夜明けなのだろう」とひそかに考えました。彼は家族や友と新しい日を祝うためのごちそうを、どうやって集めようと計画し始めました。

湿って日が差さない森の中で、1匹のキツネが巨大な木の下で立ち止まって、ふと見上げました。この立派なおんどの姿を目に留めて、キツネはワクワクする気持ちを抑えられませんでした。キツネは唇をなめながら、「ここにおいしい朝食がある」と考えました。そして、おんどりを木から降ろすための策略を練り始めました。

「あなたの声は、何と素晴らしいのでしょうか」と、キツネは呼び掛けました。

「コケコッコー！」と、おんどりは鳴きました。「ありがとう、キツネさん」

「もう、良いニュースを聞きましたか」と、キツネは精一杯感じよく尋ねました。

「良いニュースだって？ その素晴らしいニュースとは、何ですか」と、おんどりは興味津々で尋ねました。

「まだ知らないのですか？」と、キツネは信じられないというふうに言いました。

「えーっと、すべての動物の間での平和が発表されたのです。真夜中から始まりました。これからは、お互いを殺したり食べたりすることはないのです。私たちは皆、家族として生きるようになります。あなたは私の兄弟みたいなものです」

「まさか。本当ですか！」と、おんどりは不審そうに頭をかしげて言いました。

「どうなるんでしょうね。ライオンやトラが葉っぱや草を食べて幸せなんですか」

「もちろん」と、キツネは言いました。「あなたが私を信じないのなら、一緒に行って聞いてみましょうよ。その大木から降りてきませんか？」

少しの間、おんどりはそれについて考えました。どの動物も他の動物に食べられる心配をしなくていい、というのはとても牧歌的です。しかし彼は木から降りようとはしませんでした。

地面では、キツネがイライラしていました。それでもキツネはできる限りの甘い猫なで声で、「愛しいおんどりさん」と呼びました。「降りて来てくださいな。そして聞きに行ってみましょう。いったい何を待っているのですか」

おんどりはキツネを見下ろしました。キツネは木の根元を行ったり来たり、行ったり来たりしていました。その眼は期待で大きく見開かれていました。「ああ」と、おんどりは目も覚めるような羽を揺すりながら、静かに言いました。「なるほど」と、そっと独り言を言いました。「なるほど。そういうことか」

「おんどりさん」と、キツネは再び呼び掛けました。「いつまで考えているのですか。私と一緒に行って、他の動物と話してごらん下さい。あなた自身の耳で、この驚異的なニュースを聞けば、それこそ幸せでしょう？」

おんどりは足のかぎ爪を調整して、前かがみになると、キツネをじっと見ました。突然、心配そうな声で彼は尋ねました。「あの足音が聞こえるかね？　たくさんの動物が私たちの方に向かって来るようだ」。おんどりはあたかもよく見えるかのよう
に、首を伸ばしました。やがて取り乱した声で言いました。「ここから彼らが見える！」

「何の動物？」と、キツネは尋ね、突然警戒し始めました。

「見たところ、オオカミの群れのように！」と、おんどりは叫びました。「でも心配しなくても大丈夫ですよ、キツネさん。平和の発表を聞いているのだから、あなたを傷付けるようなことはしないでしょう。そうではありませんか？」

おんどりが質問を言い終わらないうちに、キツネは目に恐怖の色を浮かべて一目散に逃げ出し、すばやく姿を消しました。

安全な木のこずえで、昇った太陽の暖かさを背中に浴びながら、おんどりは高らかに、「コケコッコー！」と鳴きました。

この話の改作の数々は、世界中で数千年の間、語られてきました。この物語はイソップの寓話集や、紀元前 3 世紀までさかのぼるサンスクリット語の物語集である『パンチャタントラ』にも載っています。その時代、インドの王国の一つに、国政術の法則の理解が遅い 3 人の王子がいました。彼らの父親である国王は、パンディトゥ・ヴィシュヌ・シャルマを王子たちの教師として選び、その状況を改善するよう依頼しました。この尊敬された学者は、賢明、または賢明でない行動についての結論を王子たちが導き出せるような動物の寓話を話すことで、彼らの学びを助けました。

改作: Margaret Simpson と Eesha Sardesai

挿絵: Mort Gerberg

デザインレイアウト: Hira Tanner

© 2017 SYDA Foundation®. 著作権所有。